

おむつはずしへの挑戦

利用者自らトイレへ

社会福祉法人昭徳会 特別養護老人ホーム・高浜安立荘

高浜安立荘では、去年から全国老人福祉施設協議会主催の竹内孝仁講師による「介護力向上講習会」に参加し、自立支援介護に取り組んでいます。自立支援の為に主に4つの基本ケアがあり、1つ目は水分を1日に1500ml以上摂取すること、2つ目は食事をしっかり摂ること、3つ目は運動をすること、4つ目は排泄リズムを整えることです。これら



を意識して援助することにより、利用者がより自立した生活を送ることができ、おむつを使わない生活が実現できるので

昨年7月から取り組みを開始しましたが、水分をたくさん飲んでもらうことや、今まで車椅子の生活を送っている方に歩いてもらうという援助は思うように進まず、その効果も半信半疑な状況で、職員からは不安や不満の声が上がっていました。そこで介護力向上委員会を中心として勉強会を開催し、自立支援の理論や知識の周知に努めました。また栄養士や看護員など多職種が一丸となり、施設全体への浸透を図りました。

その内に、一人、また一人と利用者に変化が見られるようになりました。例えば、今まであまり話されなかった方が口数が増え、表情が豊かになったり、トイレで排泄できるようになって、喜ばれた方もみえました。車椅子を使用していた方が、歩行器やシルバーカーで歩けるよ



うになった例もたくさんあります。そういう利用者の自立に近づく姿を見て職員もやりがいや喜びを感じ、4つの基本ケアの重要性を改めて理解できました。

そのうち、大きなおむつが小さくなり、まったく必要がなくなった方もでてきました。おむつを使用しないことはその方の尊厳を守ることです。おむつを使わない生活は、自立へとつながっていきます。おむつはずしへの挑戦はまだ始めたばかりで試行錯誤ではありますが、利用者一人ひとりに合った自立への援助を継続し、利用者職員と笑顔があふれる施設にしたいと思えます。

（介護員 三久将弘）

（記事と写真の直接の関係はありません）